

特集展示：ミュシャから非水へ

松山市出身の杉浦非水（1876-1965）は、1901（明治 34）年、日本に持ち込まれた、ミュシャをはじめとする、アール・ヌーヴォーの作品に強く感動します。このことが、非水がデザイナーを目指す大きなきっかけとなりました。

本のデザインや百貨店のポスター、雑誌の表紙、タバコのパッケージなど、おしゃれで、親しみやすいさまざまなデザインを生み出し、日本のグラフィックデザイナーの先駆けとして、明治時代から大正、昭和にかけて活躍しました。生涯にわたって「写生」（ものをよく観察して、その姿をありのままにうつしとること）を大切にした非水の、植物の形の特徴を活かしたデザインにご注目！

〇どちらも大正時代の百貨店の宣伝ポスターです〇



着物の柄は、和風と洋風が合わさった、モダンなデザインです



人の周りに描かれたタンポポやチョウは、立体感をつけず、シールをはって飾りつけをしたように描かれています

掲載図版

※①～⑥はアルフォンス・ミュシャ作、⑨⑩は杉浦非水作
※図版はいずれも部分での掲載

- ①《モノ・モンテ・カルロ》カラーリトグラフ、1897 年、OGATA コレクション
- ②《ビザンチン》カラーリトグラフ、1907 年、OGATA コレクション
- ③《装飾資料集》リトグラフ、1902 年、OGATA コレクション
- ④《星シリーズ 月》カラーリトグラフ、1902 年、OGATA コレクション
- ⑤《イーゼルと女性》カラーリトグラフ、1898 年、OGATA コレクション

- ⑥《夏（第 3 シリーズ）》カラーリトグラフ、1903 年、OGATA コレクション
- ⑦《ゴッフル缶容のラベル マデラ》リトグラフ、1910 年、OGATA コレクション
- ⑧《10 コルナ紙幣》紙幣、1919 年、OGATA コレクション
- ⑨《三越呉服店 春の新柄陳列会》リトグラフ、1914 年、愛媛県美術館
- ⑩《三越呉服店（エンゼル）》リトグラフ、1915 年、愛媛県美術館

アルフォンス・ミュシャ展

—アール・ヌーヴォーの華—

2025 年 4 月 12 日（土）—6 月 22 日（日）

会場：愛媛県美術館 企画展示室

ミュシャ展で植物採集！



アルフォンス・ミュシャ《黄道十二宮 ラ・プリュム誌のカレンダー》
1896 年、OGATA コレクション

この展覧会ではチェコ生まれの芸術家、アルフォンス・ミュシャ（チェコの発音では「ムハ」／1860-1939）が手掛けた広告ポスターや装飾パネル、パッケージデザイン、本のイラストなど、幅広い作品およそ 500 点を紹介しています。

植物がもつ形を巧みに活かした、はなやかで人の目をひきつけるデザインは、ミュシャの作品の大きな特徴の一つです。

展示室のなかにある作品から、色々な植物を集めてみよう！

〇美術館からのおねがい〇

・展示室内では鉛筆をお使いください。（鉛筆の貸出を行っています。スタッフにお声がけください）

・作品やケースにはさわらないでください。

・この展覧会では一部の作品をのぞき、作品の写真撮影ができます。ただし、動画、フラッシュ撮影はご遠慮ください。